

I はじめに

出雲市では、平成 19 年 3 月に「出雲市環境基本計画」を策定しましたが、計画策定以降、東日本大震災を契機とした国のエネルギー政策の見直しや斐川町との合併による市域の拡大など、本市を取り巻く状況は大きく変化し、新たな課題に取り組む必要が出てきたことから、平成 25 年 3 月に「第 2 次出雲市環境基本計画」を策定しました。また、「第 2 次出雲市環境基本計画」については、中間目標値を設定していた平成 29 年度までの実績をもとに、これまでの施策の推進状況を検証するとともに、社会情勢の変化などを踏まえ、平成 30 年度に計画の中間見直しを行い「最終目標値」の再設定と施策の推進方法を一部見直しました。

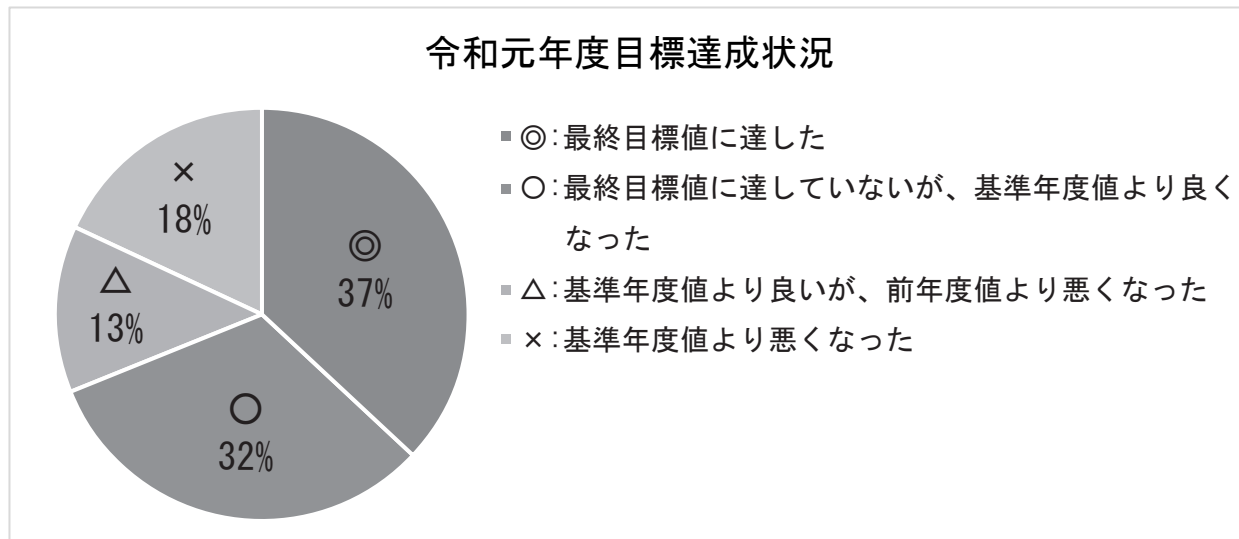
出雲市環境レポートは、出雲市の環境の状況等を明らかにするとともに、これらの計画に掲げた目標の達成状況や施策の進捗状況を点検・評価することで、市民の環境への関心を高め、情報の共有を図ることを目的とし、毎年発行することとしています。

【令和元年度の目標達成状況】

中間見直し後の第 2 次出雲市環境基本計画では、6 つの基本目標を推進するために、各施策において 38 項目の数値目標と 5 項目の参考指標を掲げています。

令和元年度の状況は、38 項目の数値目標のうち 14 項目（37%）が最終目標値（令和 4 年度）に達しました。しかし、24 項目（63%）が最終目標値に達していないことから、より積極的な取組や啓発を行う必要があります。

- ・最終目標値に達した（◎） …14 項目（37%）
- ・最終目標値に達していないが、基準年度値より良くなった（○） …12 項目（32%）
- ・基準年度値より良いが、前年度値より悪くなった（△） … 5 項目（13%）
- ・基準年度値より悪くなった（×） … 7 項目（18%）



【6 つの基本目標】

1. 澄んだ空気ときれいな水に潤い 健康に暮らせるまち（生活環境）
2. 人と自然がふれあい とともに生きるまち（自然環境）
3. 悠久の歴史が息づく 美観と快適空間のまち（快適環境）
4. 地球を考え 地域から実践するまち（地球環境）
5. 「もったいない」の心で築く 循環型のまち（循環型社会構築）
6. とともに学び行動する 環境意識が高いまち（環境保全活動）

II 出雲市の環境の状況

1 生活環境

(1) 大気環境

ア 大気環境基準達成状況

市内では、出雲保健所で二酸化窒素 (NO₂) などの大気汚染物質を常時監視しています。

平成 30 年度の環境基準達成状況は、次表のとおり、二酸化窒素 (NO₂) 及び浮遊粒子状物質 (SPM) については、環境基準値を達成しました。

しかし、光化学オキシダント (Ox) については、年平均値が 0.038ppm でありながら、年間を通じて 1 時間値が 0.06ppm を超える時間帯がありました。海外からの物質の飛来によるものと考えられ、令和元年 5 月 23 日～24 日に 1 時間値が 0.12 ppm を超え、島根県から注意報が発令されました。

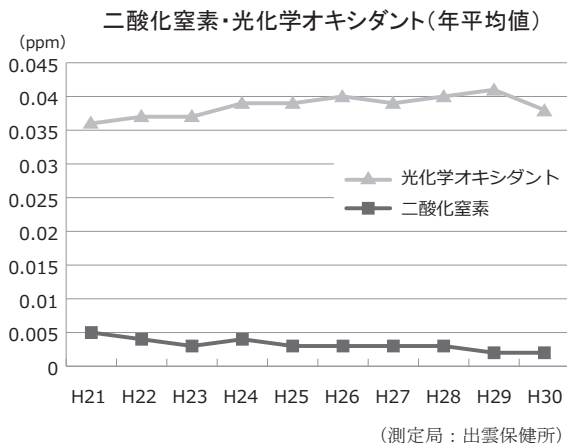
今後も、引き続き状況を監視していきます。

大気環境基準達成状況

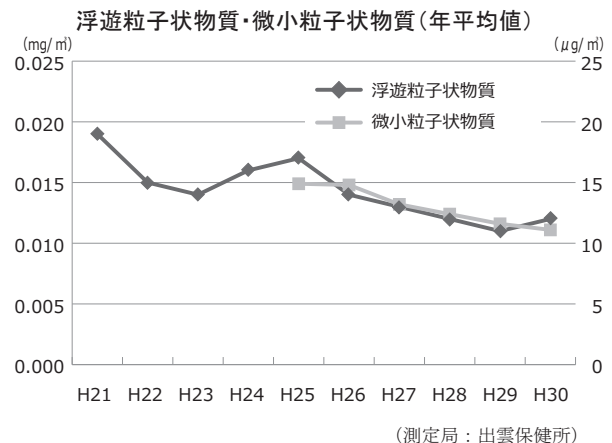
大気汚染物質名	基準年度 (H22 年度)	現 状 (H30 年度)	環境基準
二酸化窒素 (NO ₂)	○	○	1 時間値の 1 日平均値が 0.04ppm から 0.06ppm までのゾーン内またはそれ以下
光化学オキシダント (Ox)	×	×	1 時間値が 0.06ppm 以下
浮遊粒子状物質 (SPM)	○	○	1 時間値の 1 日平均値が 0.10mg/m ³ 以下で、かつ、1 時間値 0.20 mg/m ³ 以下
微小粒子状物質 (PM2.5)	—	○	1 年平均値が 15 μg/m ³ 以下で、かつ、1 日平均値が 35 μg/m ³ 以下

※環境基準達成状況：○達成、×未達成

イ 汚染物質 (年平均値) の推移



※光化学オキシダントは、昼間 (5時～20時) の1時間値を年平均した値



出典：島根県の大気汚染測定結果報告書

(2) 水環境

島根県が公表した令和元年度公共用水域及び地下水水質測定結果のうち、環境基準の類型が適用されている市内の4河川、2湖沼、1海域の環境基準達成状況は【表1】及び【表2】のとおりです。

斐伊川、神戸川、平田船川、湯谷川の4河川の水質は、下水道の整備や合併処理浄化槽の普及に伴って改善されてきており、近年は概ね良好な状況で推移し、平成 27 年度以降は環境基準を達成しています。

宍道湖及び神西湖の2湖沼は、環境基準を達成していません。宍道湖については、第7期宍道湖・中海湖沼水質保全計画 (令和元年度島根県策定)、神西湖については神西湖水環境保全指針 (平成 16 年度出雲保健所・出雲市策定) に基づき総合的に対策を進めています。

【表 1】 河川の水域別 BOD 環境基準達成状況 (BOD75%値の変化)

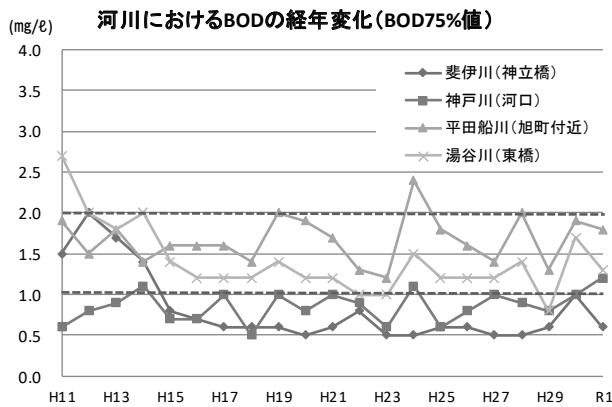
水域名		環境基準			H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
		類型	基準値	地点数										
斐伊川	本川	AA	1mg/ℓ以下	2	0.8	0.6	0.6	0.7	0.7	0.7	0.5	0.6	1.0	0.6
神戸川	上流	AA	1mg/ℓ以下	2	1.0	0.8	1.2	1.2	1.2	1.0	1.0	0.9	1.0	0.9
	下流	A	2mg/ℓ以下	2	0.9	0.6	1.1	0.6	0.8	1.0	0.9	0.8	1.0	1.2
平田船川	上流	A	2mg/ℓ以下	1	1.2	1.2	1.8	1.7	1.5	1.4	1.7	1.7	1.6	1.6
	下流	A	2mg/ℓ以下	1	1.3	1.2	2.4	1.8	1.6	1.4	2.0	1.3	1.9	1.8
湯谷川	上流	A	2mg/ℓ以下	1	0.8	1.0	1.5	1.1	1.3	1.3	1.5	1.0	1.5	1.2
	下流	A	2mg/ℓ以下	1	1.0	1.0	1.5	1.2	1.2	1.2	1.4	0.8	1.7	1.3

【表 2】 湖沼・海域の水域別 COD 環境基準達成状況 (COD75%値の変化)

水域名		環境基準			H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
		類型	基準値	地点数										
宍道湖		A	3mg/ℓ以下	5	5.9	6.1	6.5	5.7	4.9	4.7	5.0	4.9	5.3	5.6
神西湖		B	5mg/ℓ以下	2	6.9	6.0	6.1	7.1	6.6	6.1	5.3	5.7	5.5	6.0
おわし海水浴場		A	2mg/ℓ以下	1	1.8	1.6	1.6	1.6	1.4	1.8	1.6	1.9	1.5	2.0

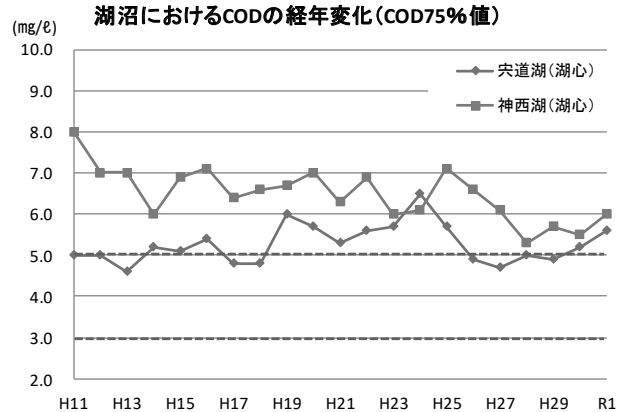
出典：島根県公共用水及び地下水水質測定結果の概要

※表中の経年変化数値について、各水域において環境基準地点が複数ある場合は、その中で最も高い数値の地点の値を記載。また、網掛は環境基準を達成したもの。(経年変化数値の単位はすべて mg/ℓ)



※BOD (生物学的酸素要求量)

河川の汚濁の程度を示す指標。水中の有機物等が微生物により分解されるときに消費される酸素量をmg/ℓで表した。数値が大きいかほど汚濁が進んでいることを示す。



※COD (化学的酸素要求量)

湖沼や海域の汚濁の程度を示す指標。水中の有機物等を酸化剤で酸化するとき消費される酸素量をmg/ℓで表した。数値が大きいかほど汚濁が進んでいることを示す。

(3) 騒音

自動車騒音については、「自動車騒音常時監視5カ年計画(平成28年度出雲市策定)」に基づき測定を実施しています。令和元年度は、市内の主要な幹線道路に面する3区間(評価対象1,009戸)の評価を行いました。評価対象となったすべての住戸で、昼夜とも環境基準を達成しました。

幹線道路の環境基準達成状況(令和元年度)

路線名	評価区間 始点 ~ 終点	評価対象 戸数	環境基準 達成戸数	環境基準 達成率
一般国道9号	斐川町荘原 ~ 斐川町併川	541戸	541戸	100%
斐川出雲大社線	高岡町 ~ 大社町北荒木	153戸	153戸	100%
一般国道184号	渡橋町 ~ 塩冶町	315戸	315戸	100%

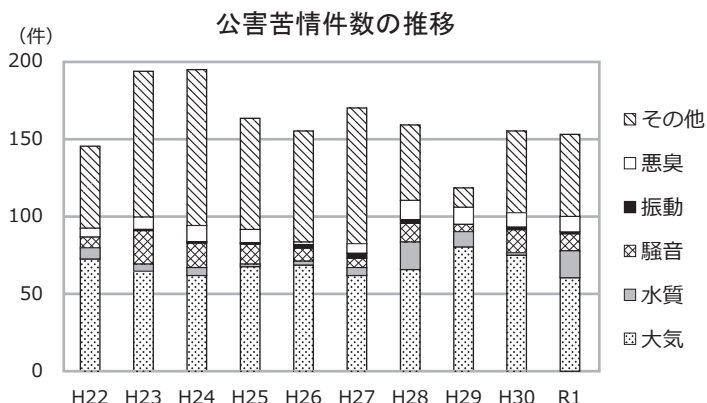
(4) ダイオキシシン類

ダイオキシシン類は、微量でも人の健康に有害な影響を及ぼすおそれのある物質で、出雲保健所がダイオキシシン類対策特別措置法に基づく常時監視を行っています。

平成 30 年度は、大気 1 地点（出雲保健所）、河川 1 地点（神戸川河口）、地下水 1 地点（所原町）で調査を行い、すべての地点で環境基準を達成しました。

(5) 公害苦情

令和元年度中に受理した公害苦情の件数は 154 件でした。そのうち、野焼き等大気の苦情が 60 件で全体の 38%を占めています。新興住宅地周辺での苦情が増えています。



2 自然環境

(1) 水生生物

平成 13 年度から公益財団法人ホシザキグリーン財団に委託し、市内主要河川に生息する水生生物等を調査しています。

令和元年度は、斐川、出雲、佐田地域の河川 25 地点で調査を行い、全部で 109 種の水生生物がみつかりました。うち、島根県や環境省レッドデータブックに掲載されている希少動物 10 種類を確認し、1 種類の外来動物と 1 種類の外来植物を確認しました。

(2) 外来生物

ヌートリア、アライグマやブラックバス、アカミミガメなどの外来生物は、人間の活動に伴い持ち込まれた生物で、自然や地域固有の動植物に大きな脅威を与えています。

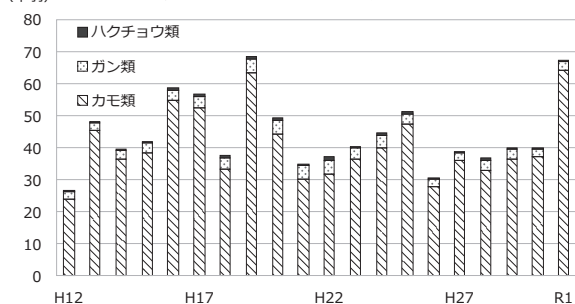
環境省では外来生物のうち、海外起源で人体や生活環境等に大きな悪影響を及ぼすおそれのある生物を、「特定外来生物」とし、飼養・栽培・保管・運搬等を規制しています。

(3) 渡り鳥

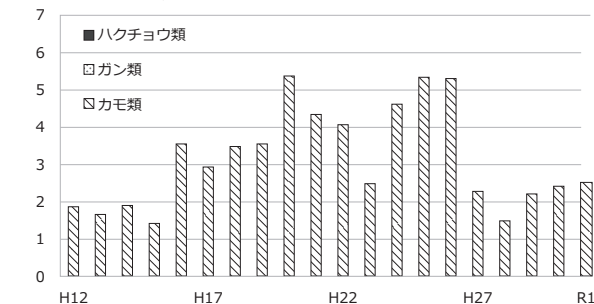
島根県では、水鳥の保護対策の基礎資料とするため、毎年ガンカモ類の生息調査（宍道湖、神西湖など）や一斉渡来状況調査を実施しています。

全国でも有数の冬鳥の渡来地で「ラムサール条約湿地」に登録されている宍道湖、また神西湖とも近年は減少傾向にありましたが、令和元年度は宍道湖で平成 19 年度以来の生息数が確認されました。

(千羽) ガンカモ類生息調査による確認数(宍道湖)



(千羽) ガンカモ類生息調査による確認数(神西湖)



(4) 野生鳥獣の保護管理

野生鳥獣による農作物等の被害を防止する一方で、保護管理を図るため、傷病野生鳥獣の救護やシカの生息頭数調査、自然環境や農作物等に被害を及ぼす有害鳥獣の捕獲や防護施設の設置に対する支援を行っています。

3 快適環境

(1) 公園緑地

令和元年度の一人当たりの公園面積は 18.5 m²であり、近年はほぼ横ばいで推移しています。

(2) 築地松景観

出雲平野の自然と文化に根ざした築地松の織りなす景観は、出雲地方独特の景観であり、全国に誇れる本市の貴重な資産です。

しかし、近年は松くい虫の被害や築地松を剪定する職人の不足、そして生活様式の変化によって、築地松景観が失われてきています。

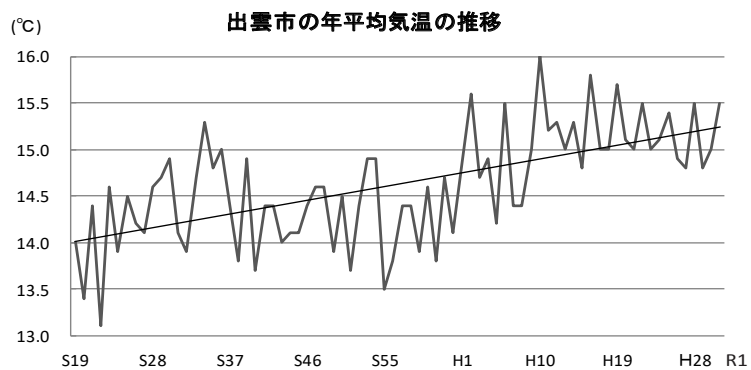
このため、築地松景観保全対策推進協議会では、防除対策を強化しています。

4 地球環境

(1) 年平均気温の推移

松江地方気象台が発表した出雲市の令和元年の年平均気温は 15.5℃でした。

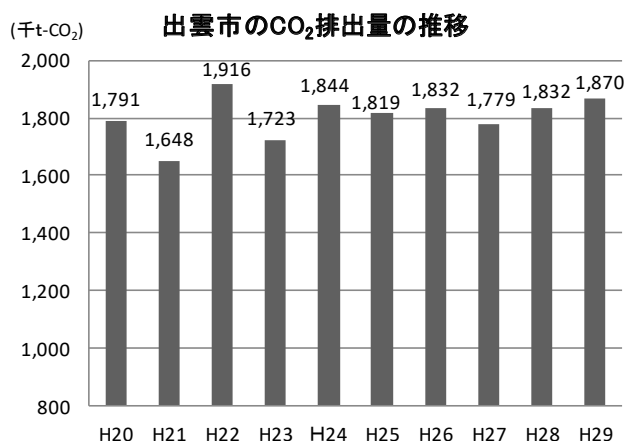
年平均気温の推移を見ると、長期的には右図のとおり上昇傾向にあります。



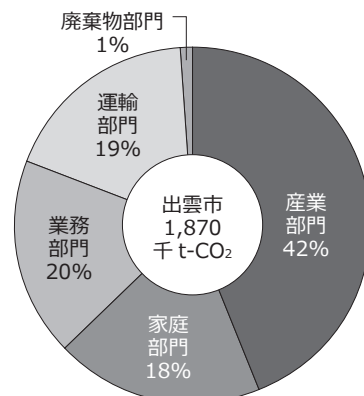
(2) 二酸化炭素 (CO₂) 排出量の推移

二酸化炭素 (CO₂) は、地球温暖化の要因となる「温室効果ガス」の 90%以上を占め、その排出量は、地球温暖化対策の目標指数となっています。

出雲市の平成 29 年度の CO₂ 排出量は、第 2 次出雲市地球温暖化対策実行計画【区域施策編】の基準年度 (平成 25 年度) に比べると、約 2.8% (約 51 千 t-CO₂) 増となりました。また、前年度と比較すると約 2.1% (約 38 千 t-CO₂) 増となりました。



部門別CO₂排出量の割合(平成29年度)



※環境省 HP「部門別 CO₂ 排出量の現況推計」から作成

5 循環型社会の構築

令和元年度のごみ総排出量は、61,234 t です。これは、市民1人が1日に約960 g、1年間で約350 kgを排出したことになります。可燃ごみ、不燃ごみの排出量は、若干の増減はあるものの増加傾向にあります。

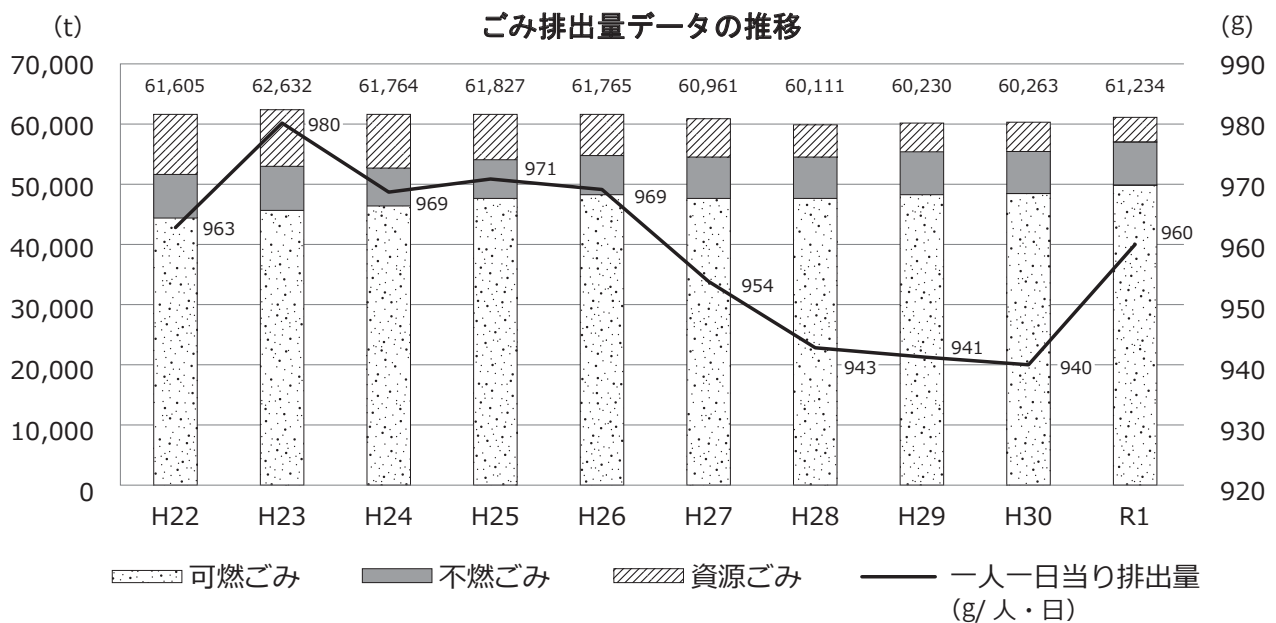
また、資源ごみ排出量は年々減少傾向にあります。これは、民間回収が進んだものと考えます。循環型社会の構築を図るため、市民や事業者と連携して、ごみの排出抑制・再生利用や適正処理の推進に努めます。

出雲市のごみ排出量の推移

(単位：t)

	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
可燃ごみ	44,588	45,910	46,504	47,465	48,167	47,816	47,747	48,429	48,398	49,676
不燃ごみ	7,064	7,054	6,348	6,665	6,704	6,794	6,875	6,934	6,993	7,476
資源ごみ	9,953	9,668	8,912	7,697	6,894	6,351	5,489	4,867	4,872	4,082
総排出量	61,605	62,632	61,764	61,827	61,765	60,961	60,111	60,230	60,263	61,234
一人一日当り排出量(g)	963	980	969	971	969	954	943	941	940	960

※火災・災害ごみを除く。



Ⅲ 出雲市の環境への取組

ここでは、数値目標の達成状況と令和元年度の取組状況について報告します。

【評価の判断基準】

- ◎：最終目標値に達した。
- ：最終目標値に達していないが、基準年度値より良くなった。
- △：基準年度値より良いが、前年度より悪くなった。
- ×：基準年度値より悪くなった。
- (-)：参考指標であり評価しない。

1 澄んだ空気ときれいな水に潤い 健康に暮らせるまち

1-1 大気環境の保全

(1) 数値目標の達成状況

目標設定項目	基準年度値 (H23年度)	実績値 (H30年度)	実績値 (R元年度)	最終目標値 (R4年度)	令和元年度 評価
1 大気汚染測定値(SPM) (環境基準 0.10mg/m以下)	0.015mg/m ³ (H22年度)	0.011mg/m ³ (H29年度)	0.012mg/m ³ (H30年度)	環境基準値 0.10mg/m以下	◎
2 市公用車への低燃費かつ低排出ガス 認定車の導入率(導入台数)	—	81% (287台)	88% (309台)	100%	○
	市公用車の更新に合わせ、順次低燃費かつ低排出ガス認定車へ変更を図る。				

(2) 主な取組

事業名	取組内容
1 一畑電車活性化事業	一畑電車沿線地域対策協議会(県、松江市、出雲市)を通じ、利便性向上により利用促進を図った。 ・通勤定期券購入助成：769枚(前年度：690枚)
2 公共交通機関利用促進啓発事業	県内各市及びバス事業者と共同で、バスネット(路線バス、鉄道等の乗換案内システム)の運用を行い、利用者の利便性向上による利用促進を図った。また、各バス路線の沿線地域で組織する運行協議会において、利用促進の啓発を行った。
3 山陰本線鉄道利用促進事業	JRの活性化事業等を実施する「島根県鉄道整備連絡調整協議会」を通じ、利用促進を図った。 ・県内小、中、高等学校に対し校外活動等での鉄道の利用を依頼(文書送付) ・通勤・通学時の鉄道利用を促すポスターを作成し、県内高等学校や関係機関へ送付 ・JR西日本米子支社に対し、西出雲駅へICOCA対応の自動改札導入を要望
4 野外等での不法ごみの焼却 (ばい煙、悪臭)の監視、指導	ごみの野外焼却に関する苦情対応として、発生人に指導を行った。 ・苦情対応件数：60件(前年度：75件)
5 佐田総合資源リサイクル施設管理事業	畜産農家から回収した糞尿を利用し製造した堆肥を稲作農家等に販売し、耕畜連携、資源循環を図った。 ・回収農家数：30戸(前年度：29戸) ・回収量：8,015t(前年度：7,372t)

1-2 水環境の保全

(1) 数値目標の達成状況

目標設定項目	基準年度値 (H23年度)	実績値 (H30年度)	実績値 (R元年度)	最終目標値 (R4年度)	令和元年度 評価
1 類型指定河川水質の環境基準達成率 (斐伊川及び神戸川上流：河川AA類 型、BOD 1mg/l以下、神戸川下 流、平田船川及び湯谷川：河川A類 型、BOD 2mg/l以下)	100%	100%	100%	100%	◎
2 類型未指定河川水質の市基準達成率 (BOD市独自基準 5mg/l以下)	100%	100%	100%	100%	◎

	目標設定項目	基準年度値 (H23年度)	実績値 (H30年度)	実績値 (R元年度)	最終目標値 (R4年度)	令和元年度 評価
3	湖沼水質の環境基準達成率 (宍道湖：湖沼A類型、COD 3mg/ℓ以下) (神西湖：湖沼B類型、COD 5mg/ℓ以下)	0%	0%	0%	100%	×
	宍道湖及び神西湖は環境基準を達成していないが、過去5年間と比較して変動の範囲内となっている。宍道湖については、第7期宍道湖・中海湖沼水質保全計画に基づき水質目標を定め、総合的に対策を進めている。神西湖についても水環境保全指針に基づき対策を進めている。 ・宍道湖：5.6mg/ℓ (前年度：5.2mg/ℓ) ・神西湖：6.0mg/ℓ (前年度：5.5mg/ℓ)					
4	海域水質（海水浴場）の市基準達成率（COD市独自基準 2mg/ℓ以下）	100%	100%	100%	100%	◎
5	廃食用油回収量	47,466 ℓ	21,968 ℓ	19,581 ℓ	17,000 ℓ	◎
	近年、基準年度値と比較して、減少傾向にある。生活スタイルの変化や健康志向により、家庭で油類を消費することが少なくなったためと考えられる。					
6	汚水処理人口普及率	77.8%	87.7%	88.2%	89.5%	○
	計画に基づき着実に増加している。今後も普及に向け計画的に整備を図る。					
7	水洗化率（接続率）	86.6%	90.8%	91.5%	93.5%	○
	整備区域内人口と新規接続人口の対比状況により、年度ごとの数値に多少の増減はあるが、新規接続人口は年々増加している。今後も、未接続世帯へ文書送付や戸別訪問を行い水洗化率向上を図る。					

(2) 主な取組

	事業名	取組内容
1	公共下水道、農業集落排水、漁業集落排水、小規模集合排水、合併処理浄化槽などの整備	汚水処理施設の整備促進を図った。 ・公共下水道整備面積：29ha (前年度：46ha) ・個人設置合併処理浄化槽：286基 (前年度：290基)
2	水質浄化、排水などに関する啓発活動	市広報を活用し、下水道事業の普及啓発活動を行った。また、下水道未接続世帯に対し、文書送付や戸別訪問を行い、早期接続を促進した。
3	油の流出などの水質事故の未然防止と発生時の迅速な対応	・河川で機械を使用する際の油類の取扱いについて、注意喚起や指導を行った。 ・交通事故等により自動車から油類が水路等に流出した際には、油吸着材やオイルフェンス、マット等を使用し、二次被害発生防止に努めた。
4	生き物調査	身近な自然の動植物調査や、校内で動植物の飼育栽培など、各学校で地域にあわせた特色のある活動を行った。
5	河川や湖に親しむ体験活動	学校の近くにある河川や湖に出かけて、動植物の生態調査や水質調査など、川や湖に親しむ活動を行った。
6	河川や湖の清掃活動の支援	自治会及び各種団体がボランティア活動で行う河川や湖の除草、浚渫活動の支援を行った。また、集められたごみの回収・処分を行った。 ・ふれあい愛護活動支援数：142件 (前年度：147件)
7	水産資源の保護	○栽培漁業の実施 ・出雲市が会員である出雲西部地域水産振興部会では、ヒラメの稚魚43,500尾を、大社湾及び十六島湾に放流した。 ○資源回復事業、放流事業の助成 ・内水面各漁協が実施する放流事業（宍道湖漁協/フナ・ウナギ・スジエビ、神西湖漁協/フナ・モクズガニ・テナガエビ、神戸川漁協/アユ）を助成した。
8	漁業の良好な環境の保全	水産多面的機能発揮対策事業において、宍道湖流域保全協議会による湖内清掃や出雲地区海域保全協議会による藻場の保全活動が実施された。
9	宍道湖一斉清掃	平田・斐川両地域の宍道湖沿岸において一斉清掃を実施した。 ・実施日：6月9日 ・参加者数：530人 (前年度：1,065人) ・ごみ回収量：0.77 t (前年度：1.41 t)
10	宍道湖水環境改善協議会	国土交通省出雲河川事務所、島根県、松江市、出雲市の4団体で設置する「宍道湖水環境改善協議会」では、宍道湖の一斉清掃のほか、ヨシ刈り取り事業等を実施した。

	事業名	取組内容
11	斐伊川水系水源の森づくり事業	斐伊川水系の上下流域の自治体で締結する「森林整備協定」に基づき、上流域の自治体を実施した造林事業に対し、負担金を支出することにより下流域の水資源の確保や水系水質の保全を図った。
12	斐伊川流域荒廃林等再生整備基金協定事業	斐伊川流域林業活性化センター及び斐伊川水系の上下流域の自治体で締結する「荒廃林等再生整備基金協定」に基づき、各自治体からの負担金を基金として積み立て、上下流域の荒廃森林における造林事業を実施し森林再生を図った。
13	中海・宍道湖観察会	中海・宍道湖・大山圏域市長会（構成市：松江市、出雲市、米子市、安来市、境港市）主催で「中海・宍道湖子ども体験スクール」を実施した。 ・実施日：8月7日（前年度：8月1日） ・参加者数：29人（前年度：37人）

1-3 健康に暮らせる環境の保全

(1) 数値目標の達成状況

	目標設定項目	基準年度値 (H23年度)	実績値 (H30年度)	実績値 (R元年度)	最終目標値 (R4年度)	令和元年度 評価
1	自動車騒音の環境基準達成率	100%	100%	100%	100%	◎
2	航空機騒音の環境基準達成率 (WECPNL値75以下)	100% (H22年度)	100%	100%	100%	◎
3	ダイオキシン類の環境基準達成率	100% (H22年度)	100% (H29年度)	100% (H30年度)	100%	◎

(2) 主な取組

	事業名	取組内容
1	騒音、振動の発生源への監視、指導	騒音・振動規制法に基づき、規制基準を超えている場合は、改善勧告や改善命令を行うこととしている。平成30年度は改善勧告等の事例はなかった。 ・苦情対応数：12件（前年度：16件）
2	航空機騒音対策	県では、昭和60年から出雲空港周辺地域で、航空機騒音調査を行っている。 ・県測定結果値：環境基準値内
3	夜間花火規制条例による規制	条例により公共の場所では夜10時以降の花火を禁止しており、看板、ホームページ等により周知を行った。
4	悪臭発生源の監視、指導	悪臭防止法に基づき、規制基準を超えている場合は、改善勧告や改善命令を行うこととしている。令和元年度は改善勧告等の事例はなかった。 ・苦情対応数：10件（前年度：10件）
5	アスベストに関する情報提供及び適正処理の推進	市ホームページで、アスベストに関する情報の提供を行った。また、建設リサイクル法による建築物解体工事の届出書を受理しており、アスベスト等の有害物質の除去を伴う旨の記載があった場合は、適切に処理するよう指導を行った。 ・指導件数：67件（前年度：45件）
6	空地などの管理指導	条例により市民等は住宅周辺の空地について、除草・清掃を行い、常に清潔な維持管理に努めるよう定められており、苦情の寄せられた空地に対して適正な管理を指導した。 ・苦情対応件数：11件（前年度：16件）

2 人と自然がふれあい ともに生きるまち

2-1 野生動植物との共生

(1) 数値目標の達成状況

	目標設定項目	基準年度値 (H23年度)	実績値 (H30年度)	実績値 (R元年度)	最終目標値 (R4年度)	令和元年度 評価
1	ホテルの生息が確認された地区の割合 (生息地区数)	49%	74% (32地区)	74% (32地区)	80% (35地区)	○
	ホテルが生息できる環境の維持・向上に向け、市民とともに自然環境の保護に努める。					

(2) 主な取組

	事業名	取組内容
1	トキによるまちづくり事業	トキのキャラクター「ミコトツキー」がトキの保護等について説明する「となりのミコトツキー」を市広報に隔月掲載した。
2	ウミネコ調査	5月21日に経島でウミネコのふ化状況調査を実施した。 ・ヒナ数 : 861羽 (前年度411羽、過去10年間平均611羽) ・未ふ化の卵数 : 218個 (前年度187個、過去10年間平均326個)

2-2 豊かな自然とのふれあい

(1) 数値目標の達成状況

	目標設定項目	基準年度値 (H23年度)	実績値 (H30年度)	実績値 (R元年度)	最終目標値 (R4年度)	令和元年度 評価
1	市主催の自然体験事業の参加者数	10,462人	11,160人	10,303人	14,000人	×
	参加者増につながる魅力ある講座や教室、イベント等を企画し開催するとともに、様々なツールを積極的に活用し情報発信に努める。					
2	自然体験市有施設の利用者数	118,655人	116,243人	117,969人	130,800人	×
	利用者増につながるよう魅力的なイベントの開催を行うとともに、様々なツールを積極的に活用し情報発信に努める。					
3	グリーンツーリズムの受入団体数	6団体	7団体	7団体	8団体	○
	県と協力して情報発信に努め、加盟団体数の増を目指す。					

(2) 主な取組

	事業名	取組内容
1	自然歩道及び自然公園の管理	地域住民の協力のもと、自然公園内のパトロールや草刈り、ごみ拾いなどを行い、景観の保護及び管理を行った。
2	開発事業などにおける事業者への助言	都市計画区域内の3,000m ² 以上または区域外の10,000m ² 以上の開発行為について、開発行為の事業者に対し、地域の生活環境保全上の見地から意見書の交付を行った。 ・意見書交付数 : 24件 (前年度 : 21件)
3	観光施設等自然体験施設運営事業	目田森林公園、わかあゆの里、うさぎ森林公園、見晴らしの丘公園、伊秩やすらぎの森及び水辺、八雲風穴、天王山キャンプ場等の管理を通し、自然にふれあうことのできるこれらの施設を広く周知することで自然体験の推進に努めた。
4	風の子案習館	・自然観察会や自然体験イベント等の開催 : 14回 (前年度 : 21回) ・体験学習等 (木の実を使った小物作り等) の開催 : 193回 (前年度 : 193回) 受講者数計 : 7,355人 (前年度 : 7,360人)
5	湊原体験学習センター	・体験学習等の開催 : 39回 (前年度 : 43回) 受講者数計 : 1,292人 (前年度 : 1,365人)
6	グリーンツーリズムの推進	県のホームページ「しまね田舎ツーリズム」において情報を発信した。

2-3 森林と農地の保全と再生

(1) 数値目標の達成状況

	目標設定項目	基準年度値 (H23年度)	実績値 (H30年度)	実績値 (R元年度)	最終目標値 (R4年度)	令和元年度 評価
1	森林整備面積 (累計)	40ha	195ha	222ha	170ha	◎
2	間伐等実施面積 (累計)	420ha	1,181ha	1,274ha	1,400ha	○
	今後も、間伐または保育が適正に実施されていない森林を中心に間伐等の推進を図る。					
3	市産材取扱量	2,700m ³	12,341m ³	9,911m ³	10,000m ³	△
4	新規林業就業者数 (累計)	1人	13人	17人	12人	◎

	目標設定項目	基準年度値 (H23年度)	実績値 (H30年度)	実績値 (R元年度)	最終目標値 (R4年度)	令和元年度 評価
5	アグリビジネススクール修了者数 (累計)	251人	465人	494人	691人	○
		近年の修了者数は年30人前後で推移している。引き続き、人材の確保と育成に努める。				
6	学校給食における地場産品の使用割合	35%	49%	51%	60%	○
		天候不良による影響は少なかったが、目標値には達しなかった。今後もマッチング会議等により、地場産品の割合を増やせるよう地産地消の推進に努める。				

(2) 主な取組

	事業名	取組内容
1	造林事業	市有林及び市行造林において、植栽木の健全な生長を促進するために、間伐等を実施した。また、森林資源の利活用を目的に、間伐材の搬出を行った。 ・間伐（搬出）：1団地 6.20ha（前年度：1団地 4.56ha） ・間伐（搬出以外）：15団地 26.78ha（前年度：10団地 21.28ha）
2	21世紀出雲林業フロンティア・ファイティング・ファンド事業	○市産材利用の推進 ・市産材の出荷促進のため、出雲木材市場への原木出荷に係る手数料及び整理料の一部を補助 ・市産材利用促進のため、構造材に市産材を使用した新築住宅に対する補助 ○森林整備、森林保全活動の推進 ・保育（下刈り、枝打ち、除伐、間伐）に対する補助 ・針葉樹や広葉樹の植樹事業の推進
3	山林の多面的機能回復の推進	地域住民が協力して里山の保全や資源の利用に取り組む活動の支援を行った。 ・支援数：8団体 15.9ha（前年度：10団体 17.9ha） ・内容：侵入竹の除去、雑草木の刈払、里山林景観の維持など
4	出雲市みどりの担い手育成事業	森林整備法人又は森林組合法に基づく法人が採用した作業員の健康保険、厚生年金及び中小企業退職金共済等の事業主負担分の補助を行った。 ・補助数：8人（前年度：4人）
5	緑の募金活動	森林を守り育てる運動のひとつとして、町内会を通じて緑の募金活動を行った。 ・募金活動主催 公益社団法人島根県緑化推進委員会（出雲市は正会員） ・募金時期：5月～7月 ・募金額：6,569,409円（うち家庭募金6,280,672円） （前年度：6,690,241円（うち家庭募金6,371,680円））
6	緑の募金公募事業	緑の募金を資金とした「緑の募金公募事業」（公益社団法人島根県緑化推進委員会）を活用し、地域住民による森林整備活動等への支援を行った。 ・助成金額：上限50万円 ・採択事業数：8件（市内団体）（昨年度：8件） ・事業内容：荒廃林整備、斐伊川流域での住民交流会、地区住民による植樹等
7	松くい虫被害対策事業	松くい虫防除計画区域内の健全なマツに対する防除薬剤の樹幹注入と、被害木の伐倒駆除を行った。 ・樹幹注入：6,496本（前年度：3,417本） ・特別伐倒駆除：107本（前年度：123本）
8	ナラ枯れ被害対策事業	市内のナラ枯れ被害木に対し、伐倒駆除等を行った。 ・伐倒駆除（くん蒸）：20本（前年度：60本）
9	ふるさとの森再生事業	松くい虫被害によって全山が松枯れしていた神西地区の市有林で、しまね森林活動サポートセンター（島根CO ₂ 吸収認証制度）からの助成を受けて、下刈りとぬき伐りを行った。 ・森林整備面積：21.10ha（前年度：27.34ha）
10	みんなで作る出雲の森事業	間伐等による森林の適正な管理と、間伐材のチップ燃料としての利用促進を目的に、市民参加による林地残材搬出費用の補助を行った。 ・補助金額：1tあたり3,000円 ・出荷量：1,265.64t（前年度：1,978.49t）
11	企業参加の森づくり事業	松くい虫被害によって荒廃した大社町遙場地内の市有林において、落葉性広葉樹の植栽を行った。また、植栽した苗木をシカの食害から守るために、保護筒を設置した。 ・植栽、シカ食害防止保護筒設置：2.0ha（前年度：1.8ha）

(3) その他の取組

	事業名	取組内容
1	人・農地プラン推進事業	「人・農地プラン」に基づき、農地中間管理機構等を活用し、地域の中心経営体への農地集積を図った。また、集落営農の法人化を支援した。 ・新規法人数：0組織（前年度：4組織）
2	多面的機能支払交付金	農地・農業用水等の資源が持つ多面的機能の維持・向上に取り組む市内の活動組織に支援を行い、地域資源の適切な保全管理を推進した。 ・農地維持支払交付金 86組織 5,338ha（前年度：88組織 5,378ha） ・資源向上支払交付金（共同活動） 75組織 5,106ha（前年度：76組織 5,135ha） ・資源向上支払交付金（長寿命化） 52組織 2,837ha（前年度：55組織 2,902ha）
3	中山間地域等直接支払事業	耕作放棄地の増加が懸念されている中山間地域等において、農業生産の維持を図りながら多面的機能を確保するため、農業者等による協定を締結し、農業生産活動を継続しておこなう集落等を支援した。 ・協定集落数：77集落（前年度：76集落） ・協定組織数：1組織（新規認定）
4	環境保全型農業直接支払交付金	化学肥料、農薬を5割以上低減する取組とセットで、地球温暖化防止や生物多様性保全に効果の高い営農活動に取り組む農業者団体に対し支援した。 ・支援団体数：22団体 256.7ha（前年度：20団体 263.8ha）
5	アグリビジネススクール事業	ぶどうチャレンジ講座、柿チャレンジ講座、いちじくチャレンジ講座、菊チャレンジ講座、レディース&シニア産直野菜講座の5講座を開講した。 ・講座開設期間：平成31年1月～令和元年12月 ・受講者数：34人（うち29人講座修了、うち3人新規就農） （前年度：34人（うち27人講座修了、うち0人新規就農）
6	県営中山間地域総合整備事業	県営事業を活用し、佐田地域において農業基盤整備事業を実施した。 ・農業用水路：1.8km（前年度：2.9km） ・暗渠排水 0.0ha（前年度：2.7ha） ・獣害防止柵 0.0km（前年度：0.1km）
7	地産地消促進による学校給食への地場製品の提供	毎月1回「おいしい出雲の一日」を設定し、地元産食材を使用した給食を提供した。また、6月に「いずも給食week」を設けたほか、11月に県が定める「しまねふるさと給食月間」の期間中、地産地消の推進に取り組んだ。

3 悠久の歴史が息づく 美観と快適空間のまち

3-1 景観保全と緑地の確保

(1) 数値目標の達成状況

	目標設定項目	基準年度値 (H23年度)	実績値 (H30年度)	実績値 (R元年度)	最終目標値 (R4年度)	令和元年度 評価
1	一人当たりの公園面積	18.0㎡	18.4㎡	18.5㎡	17.0㎡	◎

(2) 主な取組

	事業名	取組内容
1	大規模建築物等の景観指導	一定規模以上の建築工事等を実施する場合や、景観形成地域内における建築工事等の行為に、事前届出により、外観や緑化等に関して指導・助言を行った。 ・大規模行為届出数：198件（前年度：201件） ・景観形成地域の届出数：22件（前年度：21件） ・国の機関等の通知数：13件（前年度：20件）

	事業名	取組内容
2	建築物の修景助成	良好な都市景観及び調和の取れた街なみの形成を促進するため、指定した地域において修景助成を行った。 ・助成件数：3件（神門通り地区） （前年度：2件）
3	屋外広告物の規制・指導	島根県屋外広告物条例に基づき、許可委任事務を行った。 ・新規：203件（前年度：245件） ・更新分：771件（前年度：671件）
4	街路事業	快適で良好な街なみ景観を形成するため、街路樹の維持管理を行った。
5	築地松景観保全の支援	築地松景観保全対策推進協議会（島根県、出雲市）において、築地松の維持管理に要する経費の助成を行った。 ・剪定：136件（前年度：157件） ・伐倒、補植：9件（前年度：9件） ・地上散布：180件（前年度：177件） ・樹幹注入：12件（前年度：43件）
6	築地松景観フォトコンテストの実施等による普及啓発活動	築地松PRパンフレット等を配付した。また、令和元年度に築地松景観保全対策推進協議会が設立25周年を迎えたことを記念し、築地松の魅力の発信及び保全意識の向上を目的に、出雲平野の築地松景観を題材にしたフォトコンテストを実施した。 ・開催期間：平成30年10月1日～令和元年9月30日 ・応募作品数：158点 ・審査結果：最優秀賞1点、優秀賞5点、特別賞4点、入選16点
7	学校や幼稚園等での花壇づくり	各学校で野菜や花の栽培を積極的に行った。地域の施設にプレゼントしたり、地域の方と一緒に野菜を調理、食事する学校もあった。
8	公園施設のリフレッシュ整備事業	公園施設長寿命化計画に基づき、公園遊具の改修や測量業務を行った。 ・真幸ヶ丘公園の施設改修工事 ・小山南児童公園の施設改修工事 ・神前西児童公園の施設改修工事 ・一の谷公園内下水道管渠測量業務

3-2 環境美化の推進

(1) 数値目標の達成状況

目標設定項目	基準年度値 (H23年度)	実績値 (H30年度)	実績値 (R元年度)	最終目標値 (R4年度)	令和元年度 評価
1 市主催の環境啓発イベント（ポイ捨て一掃大作戦、不法投棄パトロールなど）の参加者数	9,618人	13,205人	16,496人	14,000人	◎
	引き続き「出雲市ポイ捨て禁止推進協議会」を中心に啓発活動を推進し、参加拡大に努める。				
2 海岸等一斉清掃参加者数	10,013人	9,758人	10,028人	12,000人	○
	環境意識の高揚に効果的な事業であることから、広報等により広く周知し参加拡大に努める。				
3 美化サポートクラブ登録団体数	29団体	40団体	38団体	50団体	△
	引き続き、ホームページ等で活動内容や加入方法を紹介し、自主的に美化活動へ取り組む事業所や団体等の加入促進を図る。				

(2) 主な取組

	事業名	取組内容
1	ポイ捨て・不法投棄対策の推進	出雲市ポイ捨て禁止推進協議会では、出雲地域内で「不法投棄防止パトロール」を実施し、不法投棄の実態を把握するとともに、島根県産業廃棄物協会等関係機関を交え、対策について意見交換した。また、啓発看板を作成し、設置希望の市民に配付した。 ・11月14日 不法投棄防止パトロール：18人参加（前年度：30人参加）

	事業名	取組内容
2	ポイ捨て禁止キャンペーン	出雲市ポイ捨て禁止推進協議会では、ポイ捨て禁止とマナーの向上を呼びかけるため、「ポイ捨て禁止キャンペーン」を実施した。 ・ 6月11日 神門通り：21人参加（前年度：23人参加） ・ 7月16日 出雲市駅：43人参加、出雲西高校インターアクト部含む（前年度：29人参加）
3	「市民一斉クリーンデー」や「ポイ捨て一掃大作戦」の実施	6月第1日曜日を中心として実施する「市民一斉クリーンデー」、10月の「出雲市18万人ポイ捨て一掃大作戦」への参加を、広報等を通じて市民へ呼びかけた。 ・ 6月「市民一斉クリーンデー」参加者：12,517人（前年度12,294人） ・ 10月「出雲市18万人ポイ捨て一掃大作戦」参加者：14,800人（前年度：11,378人）
4	美化サポートクラブ	ボランティアとして美化活動等に実施協力する市民団体や事業所を募集し「美化サポートクラブ」として認定した。その認定団体等に対し傷害保険への加入等の支援を行った。 ・ 認定数：38団体 1,128人（前年度：40団体 1,250人）
5	「ポイ禁だより」の発行	市広報に「ポイ禁だより」を掲載（3月）し、ポイ捨て禁止キャンペーンや不法投棄防止パトロールの状況を紹介するとともに、ポイ捨てや不法投棄防止を呼びかけた。

4 地球を考え 地球から実践するまち

4-1 地球温暖化防止の取組

(1) 数値目標の達成状況

	目標設定項目	基準年度値 (H23年度)	実績値 (H30年度)	実績値 (R元年度)	最終目標値 (R4年度)	令和元年度 評価
1	市の事務及び事業から発生するCO ₂ 排出量	8,616t-CO ₂ (H22年度)	7,184t-CO ₂	7,229t-CO ₂	7,500t-CO ₂	◎
2	市有施設（事務部門）の電気使用量	10,935,200kWh (H22年度)	10,207,548 kWh	10,284,582kWh	9,732,300kWh	△
		幼稚園・小中学校の冷房設備導入等により、前年度に比べて電気使用量が微増した。引き続き、適正な冷暖房機器の室温管理や消灯など、全庁舎をあげて節電に取り組む。				
3	LED防犯灯の設置基数（累計）	401基	4,034基	4,771基	5,800基	○
		今後も新設及び更新時に補助を行うなど年次的にLED化を図る。				
4	再生可能エネルギー導入市有施設数	9施設	12施設	12施設	16施設	○
		再生可能エネルギー導入市有施設数の増加を図る。				
5	再生可能エネルギー普及啓発事業への参加者数	0人	71人	0人	150人	×
		年2回開催の新エネルギーバスツアーやJ-クレジット制度を活用した再生可能エネルギー普及啓発事業により、再生可能エネルギーに関する市民理解を醸成し、住宅用太陽光発電設備の導入件数の増加に寄与するなど一定の成果が得られたため、平成30年度末をもって事業を廃止した。				
6	学校版エコライフチャレンジしまね登録小中学校割合	100%	100%	100%	参考指標	—
7	ISO14001、エコアクション21認証取得事業所数	34事業所	36事業所	40事業所	参考指標	—

(2) 主な取組

	事業名	取組内容
1	電気自動車急速充電スタンドの整備	3か所の電気自動車急速充電スタンドを管理し、環境に優しい電気自動車の普及促進を図った。（設置場所：道の駅大社ご縁広場、道の駅キララ多伎、道の駅湯の川）
2	市の事務及び事業から発生するCO ₂ 排出量、電気使用量の削減	「出雲市本庁舎における省エネルギー行動計画」に基づき、空調の運転時間・設定温度の制限や、不要な照明の消灯の徹底、エレベーターの利用の自粛など、全庁あげて省エネルギーに取り組んだ。

	事業名	取組内容
3	防犯灯のLED化	市設置防犯灯については、新設防犯灯すべてをLED防犯灯で設置するとともに、従来の蛍光灯タイプの防犯灯をLED防犯灯へ年次的に更新した。また、町内会等設置防犯灯については、町内会等が新設又は更新するLED防犯灯に対して補助を行った。 ・市設置LED防犯灯：新設19灯、更新239灯（前年度：新設15灯、更新233灯） ・町内会等設置LED防犯灯：新設又は更新479灯（前年度：新設又は更新478灯）（補助対象数）
4	エコドライブ推進啓発	11月のエコドライブ推進月間のキックオフイベントとして、いずも産業未来博会場（出雲ドーム）にて、リーフレットを配布し、来場者にエコドライブを呼びかけた。
5	いずも産業未来博への出展	出雲ドームで11月2日、3日に開催された「いずも産業未来博」にて、麻のたわし作り体験、エコドライブ体験、うちエコ診断、省エネ体験など、省エネ・3Rをテーマとした出展を行った。また、出展ブース内で省エネ啓発物品（エコバッグ、パンフレット）の配布を行った。
6	クールチョイス普及啓発活動	7月5日、ラピタ本店にて地球温暖化対策のための国民運動「クールチョイス」の取組に係る啓発活動を実施し、地球温暖化防止への取組を呼びかけた。

	事業名	取組内容
1	再生可能エネルギー設備の導入	○住宅用太陽光発電システムを設置する市民に対し、平成21年度から設置費用の一部について補助を行っている。また、平成29年度からは新たに蓄電池設備に対する補助を開始した。 ・補助件数（延べ）：1,966件（前年度：1,927件） ・合計出力：約10,000kW（前年度：約9,800kW） ○公共施設の再生可能エネルギー設備 ・太陽光：10ヶ所 出力184.9kW ・バイオマス：1ヶ所 出力3,690.0kW ・風力：1ヶ所 出力1,700.0kW ※民間事業者によるメガソーラーなどの発電設備も含めると、市内の再生可能エネルギー発電設備の合計出力は171,905kW（令和元年度末現在）で、県内で最大である。
2	広報いずもへの記事掲載	再生可能エネルギーについて広く市民へ周知するため、広報いずもに特集記事を掲載した。 ・5月号『再生可能エネルギーって何ですか？』 ・7月号『バイオマスについて』 ・9月号『太陽光発電について』 ・1月号『風力発電について』 ・2月号『出雲市の再生可能エネルギーの現状と今後について』
3	再生可能エネルギー教室の開催	再生可能エネルギー全般についての学習及び再生可能エネルギーに関する実験を含めたワークショップを行った。 ・実施校：小学校 4校、児童クラブ 9クラブ ・参加者：492名（前年度：411名） ・講師：東和环境科学株式会社 山陰営業所 理事 鷹村 憲司氏（県が委託）
4	神話の國出雲さんさん倶楽部の取組（J-クレジット制度）	「神話の國出雲さんさん倶楽部（住宅用太陽光発電設備を設置した市民を会員とする任意団体）」が削減したCO ₂ を環境価値として市がとりまとめ、クレジット化し企業等に売却するための取組を行った。 ・令和元年度末の会員数：871人（前年度：833人） ・令和元年度クレジット販売量：571t-CO ₂ （前年度：42t-CO ₂ ）

4-2 地球規模での環境問題への取組

(1) 主な取組

事業名	取組内容
1 フロン対策	市ホームページ等に家電リサイクル法などの詳細を掲載し周知した。
2 海岸漂着ごみ回収事業	市民ボランティアによる海岸清掃活動によって集められた海岸漂着ごみの回収を行った。また、海岸管理者である国、県に助成の拡充について働きかけを行った。 ・海岸ごみ回収量：107 t（前年度：139 t）

5 「もったいない」の心で築く 循環型のまち

5-1 廃棄物対策と資源循環の推進

目標設定項目	基準年度値 (H23年度)	実績値 (H30年度)	実績値 (R元年度)	最終目標値 (R4年度)	令和元年度 評価
1 ごみ排出量	62,632t	60,263 t	61,234 t	57,602t	△
	増加傾向にある。特に事業系ごみが増加していることから、事業所へ分別の徹底やリサイクルの推進について啓発し、ごみ排出量の削減を図る。また、家庭系ごみについては、引き続き、ごみ減量化に係る研修会や環境学習教室、環境イベントなどにおいて啓発する。				
2 ごみ再資源化量 (再資源化率)	12,239t (19.5%)	7,590 t (12.6%)	7,155 t (11.6%)	14,846t (25.7%)	×
	民間のリサイクル拠点が増えたため、市の公用収集による資源ごみ回収量が減少傾向にある。				
3 ごみ最終処分量 (最終処分率)	9,104t (14.5%)	8,740 t (14.5%)	8,971 t (14.6%)	7,973t (13.8%)	△
	前年度に比べ、宍道湖の水草の量が増加したこともあり、全体量としては多い状況である。最終処分までの収集・分別の在り方などを検討する必要がある。				
4 リサイクル団体回収補助登録団体数	90団体	88団体	83団体	100団体	×
	団体数、回収量とも減少傾向にある。令和元年度をもって事業廃止。				

(2) 主な取組

事業名	取組内容
1 ガーデンシュレッダー貸出事業	家庭で利用できる剪定枝木粉碎機（5台）を市民へ貸し出し、チップ化した剪定枝を堆肥や土壌改良材として利用してもらうことで、ごみの減量化を図った。 ・貸出回数：61回（前年度：43回） ・破砕量：4,504kg（前年度：2,360kg）
2 リサイクル団体回収補助事業	資源物（古紙・空き缶・リターナブルびん）を回収する団体に対して、補助金を交付した。民間のリサイクル回収（拠点）が増えており、回収量は減少している。 ・補助対象団体数：83団体（前年度：88団体） ・補助金額：1,829千円（前年度：1,907千円） ・回収量：古紙 838t（前年度：870 t） 空き缶68 t（前年度：72 t） リターナブルびん7,312本（前年度：12,134本）
3 出雲市ごみ減量化アドバイザー派遣事業	ほかしによる生ごみ堆肥化や廃品のリユース方法等について周知するため、自治会等が行う研修会へ「出雲市ごみ減量化アドバイザー」を派遣した。 ・登録講師：5人（前年度：5人） ・派遣回数：30回（前年度：25回）
4 レジ袋無料配布中止事業	レジ袋の無料配布中止やマイバッグ持参運動を通じ、ごみの減量化を推進した。 ・協力事業者数：12事業者 29店舗（前年度：12事業者 29店舗） ・マイバッグ持参率：84.5%（前年度：85.4%）

(3) その他の取組

	事業名	取組内容
1	ごみ減量化啓発事業	コミュニティセンターや出雲市環境保全連合会各支部等が主催する「ごみ減量化研修会」に、市職員や市が委託しているNPO法人を講師として派遣した。 ・派遣回数：41回（前年度：35回）
2	スーパー等の店頭回収の推進	スーパー等が行う店頭回収の取組をホームページ等で紹介し、周知を図った。
3	リサイクルステーション設置事業	コミュニティセンターやごみ集積場等にリサイクルステーションを開設し、資源物（古紙や古布）を回収した。
4	リサイクルショップの紹介・周知	市内にあるリサイクルショップの所在地・連絡先等を市のホームページ等で紹介し、リユース、リサイクルを呼びかけた。
5	いずも古着市開催事業	古着のリユースを目的に「いずも古着市2019withエコフェスタ」を開催した。イベントではエコワークショップやフリーマーケット、環境アニメの上映も行った。また、食品ロス削減のため、不用食品の回収も行い、フードバンク事業へ寄付した。 ・主催者：いずも古着市実行委員会 ・開催日：11月9日、10日 ・場 所：朱鷺会館（西新町） ・来 場 者 数： 約1,100人（前年度：約 800人） ・持ち込まれた古着：約7,300枚（前年度：約4,800枚） ・販 売 数： 約2,800枚（前年度：約2,300枚）
6	次期可燃ごみ処理施設整備事業	次期可燃ごみ処理施設の敷地造成工事が完了し、10月から建設工事に着手した。
7	ごみ出しおたすけアプリ配信事業	ごみの収集日、分別やし出し方に関する情報を分かりやすく迅速に提供できるスマートフォン用アプリの無料配信を行った。 ・利用登録者数：12,348人（うちポルトガル語版2,199人） （前年度：8,790人（うちポルトガル語版 1,515人）） ・アクセス件数：381,682件（前年度：214,437件）

5-2 環境と経済の好循環の推進

(1) 数値目標の達成状況

	目標設定項目	基準年度値 (H23年度)	実績値 (H30年度)	実績値 (R元年度)	最終目標値 (R4年度)	令和元年度 評価
1	「しまエコショップ」登録店舗数 (H29年度までは「しまねエコショップ」登録店舗数)	32店舗	129店舗	149店舗	参考指標	—
		平成30年度に「しまねエコショップ」は、業種を問わず環境にやさしい取組を実施する店舗を登録する制度へと見直しを行われ、名称を「しまエコショップ」に変更された。変更後は「しまエコショップ」とし、引き続き状況と登録店舗数を把握する。				
2	「しまねグリーン製品」登録製品数	44製品	48製品	41製品	参考指標	—

(2) 主な取組

	事業名	取組内容
1	環境にやさしい製品の普及と利用促進	県では、3R、省エネ・省資源、環境配慮型経営の実践など、環境にやさしい取組を行っている店舗を「しまエコショップ」として認定、また島根発の優れたリサイクル製品を「しまねグリーン製品」に認定し、資源の循環的な利用の促進とリサイクル産業の育成を図っている。市では、これらの店舗と製品の普及・利用を図るために市民に情報提供を行った。
2	グリーン購入の推進	市役所では、職員の地球温暖化対策率先行動計画である「いずもエコオフィス・アクションプログラムⅢ」の中で、グリーン購入の促進を掲げ取り組んだ。

6 ともに学び行動する 環境意識が高いまち

6-1 環境学習・環境保全活動の推進

(1) 数値目標の達成状況

目標設定項目	基準年度値 (H23年度)	実績値 (H30年度)	実績値 (R元年度)	最終目標値 (R4年度)	令和元年度 評価
1 斐川環境学習センターの利用者数	3,841人	5,300人	5,105人	5,000人	◎
2 ごみ減量化アドバイザー等の派遣回数	83回	60回	71回	100回	×
「ごみ減量化研修会」の企画やアドバイザーの新規募集など、事業の充実と周知を図る。					
3 こどもエコクラブ登録団体数	19団体	8団体	8団体	参考指標	—

(2) 主な取組

事業名	取組内容
1 斐川環境学習センター	地域環境や地球環境を守り、次世代に引き継ぐための拠点施設として利用促進を図った。 ・主催事業（裂き織り体験、野の花談議等） 開催回数：39回、受講者数：502人 ・委託事業（環境講座、体験教室、自然観察、アース館祭り） 開催回数：92回、受講者数：797人
2 学校教育での環境学習の推進	廃棄物処理施設の見学やごみ問題について考えたり、動植物の観察や飼育栽培、身近な河川の水質調査等を行った。また、地域の清掃活動や海岸清掃などのボランティア活動にも積極的に参加した。
3 こどもエコクラブ	市広報やホームページを通じ情報発信を行った。 ・加入数：8団体 364人（前年度：8団体 345人）
4 出雲市環境保全連合会	市内各支部で、定期的に道路や公園等の美化活動、不法投棄等の巡視パトロール、地域の文化祭等での環境啓発活動を行った。 ・支部数：43支部
5 「古新聞紙を使っておもしろ立体かぼちゃを作ろう」講座の開催	ごみの減量化、リサイクルの意識を高めることを目的に、出雲科学館で古新聞紙を使っておもしろ立体かぼちゃを作る講座を実施した。 ・実施日：8月3日 ・参加者数：54名（子ども31名、保護者23名）

6-2 環境情報の提供と共有

(1) 数値目標の達成状況

目標設定項目	基準年度値 (H23年度)	実績値 (H30年度)	実績値 (R元年度)	最終目標値 (R4年度)	令和元年度 評価
1 環境新聞発刊	年6回	年24回	年24回	年40回	○
環境に関する情報や地域の取組を「出雲エコなび」として掲載した。今後も、ホームページ等を活用し広報活動に努める。					

(2) 主な取組

事業名	取組内容
1 広報による啓発	環境情報をまとめたポータルサイト「出雲エコなび」や「広報いずも」を運用活用し、市の環境施策やイベント情報、地域の取組等を紹介した。また、ごみ減量化等に関する啓発記事を定期的に掲載した。
2 イベントにおけるごみ減量化啓発コーナー出展	市内で開催されるイベントの際に、ごみ減量化啓発コーナーを出展し啓発を行った。 ・6月9日「さだのちいさなマーケットcotaba」 ・10月13日「高浜地区文化祭」 ・10月26日「四絡地区文化祭」 ・10月26日「アース館祭り」 ・10月27日「高松地区文化祭」 ・11月2日、3日「いずも産業未来博2019」 ・11月9日「鳶巣まつり」 ・11月10日「3 Rマーケット」

IV 出雲市役所の取組

市役所は、「いずもエコオフィス・アクションプログラムⅢ」や「出雲市役所本庁舎における省エネルギー行動計画」を策定し、エネルギー消費の低減を進めています。

1 エネルギーの使用の合理化等に関する法律（省エネ法）に基づく1年間のエネルギー使用量の状況

【市のエネルギー使用量（原油換算値）の状況】

特定事業者	H22年度 (基準年)	H28年度		H29年度		H30年度		R元年度	
	原油換算(kℓ)	原油換算(kℓ)	対前年度比	原油換算(kℓ)	対前年度比	原油換算(kℓ)	対前年度比	原油換算(kℓ)	対前年度比
市役所	13,848	13,273	99.5%	12,095	91.1%	11,665	96.4%	10,599	90.9%
水道局	2,516	2,643	100.8%	3,334	126.1%	3,270	98.1%	4,943	151.2%
教育委員会 (学校を含む)	2,322	2,143	101.1%	2,219	103.5%	2,167	97.7%	2,217	102.3%
合計	18,686	18,059	99.9%	17,648	97.7%	17,102	96.9%	17,759	103.8%

特定事業者とは、省エネ法に基づく1年間のエネルギー使用量の合計が、原油換算値で1,500 kℓ以上排出する事業者のことです。

特定事業者（市役所、上下水道局、教育委員会）は、それぞれエネルギー消費を管理し、中長期的な使用エネルギーの低減を求められています。

2 「いずもエコオフィス・アクションプログラムⅢ」取組結果

【評価の判断基準】

◎：目標値に達した。

○：目標値に達していないが、基準年度値より良くなった。

△：基準年度値より良いが、前年度より悪くなった。

×：基準年度値より悪くなった。

(1) 市の事務及び事業から発生する二酸化炭素（CO₂）排出量の削減

ア 数値目標の達成状況

	目標設定項目（単位）	基準年度値 (H29年度)	実績値 (H30年度)	実績値 (R元年度)	最終目標値 (R3年度)	H30 評価	R元 評価
1	CO ₂ 総排出量（t-CO ₂ ）	7,467	7,009	7,064	7,360	◎	◎

※ 「いずもエコオフィス・アクションプログラムⅢ」では温室効果ガスのうち、最も排出量が多い二酸化炭素（以下CO₂）を対象としています。CO₂排出量は各エネルギー使用量の実績値にエネルギーの種類別に定められている係数を乗じて求められます。

取組をさらに推進するため、令和元年度に目標値を改定しました。

（目標値：7,757 t-CO₂⇒7,360 t-CO₂）

暖冬の影響から、暖房に使用する燃料の使用量が抑えられたことや、全庁挙げて省エネルギーの取組を推進したことから目標値を達成しました。

イ エネルギー使用量の内訳

・庁舎関係

	目標設定項目 (単位)	基準年度値 (H29年度)	実績値 (H30年度)	実績値 (R元年度)	最終目標値 (R3年度)	H30 評価	R元 評価
1	電 気 (kWh)	10,020,497	9,897,781	9,991,582	10,330,000	◎	◎
2	灯 油 (ℓ)	453,983	325,303	327,978	370,000	◎	◎
3	A 重 油 (ℓ)	9,000	8,000	2,000	7,000	○	◎
4	L P G (m ³)	22,818	20,605	20,638	20,000	○	△
5	都 市 ガ ス (m ³)	97,352	81,438	82,017	90,000	◎	◎
6	ごみ 排 出 量 (kg)	23,091	22,392	25,970	15,000	○	×

※1～5の項目は、市役所・上下水道局・教育委員会（学校を含む）を対象に集計し評価しています。

※6の項目は、市役所・上下水道局・教育委員会（学校を含まない）を対象に集計し評価しています。

【電気使用量】令和元年度は、学校へのエアコンの導入や、施設におけるエネルギー調達
の移行（重油からCO₂排出量の少ない電力へ）によって、平成30年度より微増したも
のの、暖冬による影響から暖房に使用する燃料の使用量が抑えられ、目標値を達成す
ることができました。

【LPG】平成30年度より微増で、目標値を達成することはできませんでした。

【ごみ排出量】平成30年度より増で、目標値を達成することはできませんでした。令和
元年度から計量方法を変更し、さらに実態に即したものとなりました。

【その他のエネルギー使用量】例年並みの実績値で、目標値を達成しました。

・公用車関係

ガソリン及び軽油の使用量は、目標値を達成しました。

	目標設定項目 (単位)	基準年度値 (H29年度)	実績値 (H30年度)	実績値 (R元年度)	最終目標値 (R3年度)	H30 評価	R元 評価
1	ガ ソ リ ン (ℓ)	136,475	129,650	129,428	130,000	◎	◎
2	軽 油 (ℓ)	7,212	5,419	5,503	7,000	◎	◎

※市役所・上下水道局・教育委員会（学校を含む）の車両を対象に集計し評価しています。

ウ 主な取組

取組内容	
1	冷暖房設備の温度設定管理と室温の適正管理(夏季は28℃、冬季は19℃)の徹底を図った。
2	職員のクールビズ(5月1日～10月31日)、ウォームビズ(11月1日～3月31日)を実施した。
3	両面コピーや縮小コピーを徹底し、ミスコピー紙や不要になった用紙の裏面を有効活用する取組を実施した。
4	課ごとに重点取組項目(2項目以上)を設定し、職場単位でのエコオフィスを推進した。 ・昼休み、時間外などの不要な照明の消灯の徹底 ・職員のエレベーター利用の自粛 など
5	各職場に環境活動推進員を選任し、エコオフィス推進の実務研修を行うとともに、職場内研修を実施し、数値目標や取組項目の周知徹底を図った。
6	各課における取組状況の確認、評価を行うため、17の職場において内部監査を実施した。
7	年度終わりや年末など、庁舎のごみ排出量の増加が見込まれる時期には、排出抑制と分別の徹底のための職員周知を行った。
8	「食品ロス」の削減推進のため、会食時には「3010運動」の取組を推進した。 ・注文の際には適量を注文する。 ・開始後30分間は席を立たず料理を楽しむ。 ・終了前10分間は自分の席に戻り、再度料理を楽しむ。

エ 今後の方向性

令和元年度に目標値を改定しました。ごみ排出量を削減し目標値を達成するためには、一層の努力が必要となっています。全職員が一丸となり、取組を推進します。

(2) 「市職員のマイカー通勤自粛」の取組

ア 数値目標の達成状況

	目標設定項目 (単位)	実績値 (R元年度)	最終目標値 (R3年度)	R元年度評価
1	CO ₂ 削減量 (kg-CO ₂)	95,566	200,000	×

イ 主な取組

取組内容	
1	職員の率先行動として、毎月第3週を「市職員エコ通勤ウィーク」と定め、徒歩、自転車、バイク、公共交通機関利用によるエコ通勤を呼びかけている。

マイカー通勤をしている職員がマイカーで通勤する理由は、家族の送迎や買い物など、個々の生活形態によるところが大きく、乗り合わせによる通勤方法もあわせて推奨します。

ウ 今後の方向性

令和元年度に目標対象及び目標値を改定しました。新たな目標は、対象が全職員となり、ノーマイカー通勤1日分がCO₂削減量として結果に寄与します。全職員が一丸となり、取組を推進します。

また、引き続き公共交通機関の利用促進や健康増進へのアプローチなど、継続的な啓発活動を行っていきます。

「環境基本計画」基本目標の達成状況

No.	基本目標	目標設定項目	基準年度値 (H23年度)	実績値 (H30年度)	実績値 (R元年度)	最終目標値 (R4年度)	令和元年度 評価	課題等
1	1-1 大気	1 大気汚染測定値(SPM) (環境基準 0.10mg/m ³ 以下)	0.015mg/m ³ (H22年度)	0.011mg/m ³ (H29年度)	0.012mg/m ³ (H30年度)	環境基準値内	◎	
2		2 市公用車への低燃費かつ低排出ガス 認定車の導入率(導入台数)	—	81% (287台)	88% (309台)	100%	○	市公用車の更新に合わせ、順次低燃費かつ低排出ガス認定車へ変更を図る。
3	1-2 水	1 類型指定河川水質の環境基準達成率(斐伊 川及び神戸川上流:河川AA類型、BOD 1mg/ℓ以下、神戸川下流、平田船川及び湯 谷川:河川A類型、BOD 2mg/ℓ以下)	100%	100%	100%	100%	◎	
4		2 類型未指定河川水質の市基準達成率 (BOD市独自基準 5mg/ℓ以下)	100%	100%	100%	100%	◎	
5		3 湖沼水質の環境基準達成率(宍道湖: 湖沼A類型、COD 3mg/ℓ以下、神西湖: 湖沼B類型、COD 5mg/ℓ以下)	0%	0%	0%	100%	×	宍道湖及び神西湖は環境基準を達成していないが、過去5年間と比較して変動の範囲内となっている。
6		4 海域水質(海水浴場)の市基準達成率 (COD市独自基準 2mg/ℓ以下)	100%	100%	100%	100%	◎	
7		5 廃食用油回収量	47,466ℓ	21,968ℓ	19,581ℓ	17,000ℓ	◎	
8		6 汚水処理人口普及率	77.8%	87.7%	88.2%	89.5%	○	計画に基づき着実に増加している。今後も、普及に向け計画的に整備を図る。
9		7 水洗化率(接続率)	86.6%	90.8%	91.5%	93.5%	○	整備区域内人口と新規接続人口の対比状況により、年度ごとの数値に多少の増減はあるが、新規接続人口は年々増加している。今後も、未接続世帯へ文書 送付や戸別訪問を行い水洗化率向上を図る。
10	1-3 健康	1 自動車騒音の環境基準達成率	100%	100%	100%	100%	◎	
11		2 航空機騒音の環境基準達成率	100% (H22年度)	100%	100%	100%	◎	
12		3 ダイオキシン類の環境基準達成率	100% (H22年度)	100% (H29年度)	100% (H30年度)	100%	◎	
13	2-1 野生	1 ホタルの生息が確認された地区の割合	49% (21地区)	74% (32地区)	74% (32地区)	80% (35地区)	○	ホタルが生息できる環境の維持・向上に向け、市民とともに自然環境の保護に 努める。
14	2-2 自然	1 市主催の自然体験事業の参加者数	10,462人	11,160人	10,303人	14,000人	×	参加者増につながる魅力ある講座や教室等を企画し開催するとともに、様々な ツールを積極的に活用し情報発信に努める。
15		2 自然体験市有施設の利用者数	118,655人	116,243人	117,969人	130,800人	×	利用者増につながるよう魅力的なイベントの開催を行うとともに、様々なツール を積極的に活用し、情報発信に努める。
16		3 グリーンツーリズムの受入団体数	6団体	7団体	7団体	8団体	○	県と協力して情報発信に努め、加盟団体数の増を目指す。
17	2-3 森農	1 森林整備面積(累計)	40ha	195ha	222ha	170ha	◎	
18		2 間伐等実施面積(累計)	420ha	1,181ha	1,274ha	1,400ha	○	今後も、間伐または保育が適正に実施されていない森林を中心に間伐等の推 進を図る。
19		3 市産材取扱量	2,700m ³	12,341m ³	9,911m ³	10,000m ³	△	
20		4 新規林業就業者数(累計)	1人	13人	17人	12人	◎	
21		5 アグリビジネススクール修了者数(累 計)	251人	465人	494人	691人	○	年々増加傾向にある。引き続き、人材の確保と育成に努める。
22		6 学校給食における地場産品の使用割 合	35%	49%	51%	60%	○	天候不良による影響は少なかったが、目標値には達しなかった。今後もマッ チング会議等により、地場産品の割合を増やせるよう地産地消の推進に努める。
23	3-1 景観	1 一人当たりの公園面積	18.0m ²	18.4m ²	18.5m ²	17.0m ²	◎	
24	3-2 美化	1 市主催の環境啓発イベント(ポイ捨て一 掃大作戦、不法投棄パトロールなど)の 参加者数	9,618人	13,205人	16,496人	14,000人	◎	
25		2 海岸等一斉清掃参加者数	10,013人	9,758人	10,028人	12,000人	○	減少傾向にある。環境意識の高揚に効果的な事業であることから、広報等に より広く周知参加拡大に努める。
26		3 美化サポートクラブ登録団体数	29団体	40団体	38団体	50団体	△	増加傾向にある。引き続き、ホームページ等で活動内容や加入方法を紹介し、 自主的に美化活動へ取り組む事業所や団体等の加入促進を図る。
27	4-1 温暖化	1 市の事務及び事業から発生するCO ₂ 排 出量	8,616t-CO ₂ (H22年度)	7,184t-CO ₃	7,229t-CO ₃	7,500t-CO ₂	◎	
28		2 市有施設(事務部門)の電気使用量	10,935,200kWh (H22年度)	10,207,548kWh	10,284,582kWh	9,732,300kWh	△	幼稚園・小中学校の冷房設備導入により、前年度に比べて電気使用量が微増 した。引き続き、適正な冷暖房機器の室温管理や消灯など、全庁舎をあげて節 電に取り組む。
29		3 LED防犯灯の設置基数	401基	4,034基	4,771基	5,800基	○	今後も、新設及び更新時に補助を行うなど年次的にLED化を図る。
30		4 再生可能エネルギー導入市有施設数	9施設	12施設	12施設	16施設	○	再生可能エネルギー導入市有施設数の増加を図る。
31		5 再生可能エネルギー普及啓発事業へ の参加者数	0人	71人	0人	150人	×	年2回開催の新エネルギーバスツアーやJ-クレジット制度を活用した再生可能 エネルギー普及啓発事業により、再生可能エネルギーに関する市民理解を醸成 し、住宅用太陽光発電設備の導入件数の増加に寄与するなど一定の成果が得 られたため、平成30年度末をもって事業を廃止した。
32		6 学校版エコライフチャレンジしまね登録 小中学校割合	100%	100%	100%	参考指標	—	【県事業】
33		7 ISO14001、エコアクション21認証取得事 業所数	34事業所	36事業所	40事業所	参考指標	—	【県事業】
34	5-1 3R	1 ごみ排出量	62,632t	60,263t	61,234t	57,602t	△	増加傾向にある。特に、事業系ごみが増加していることから、事業所へ分別の 徹底やリサイクルの推進について啓発し、ごみ排出量の削減を図る。また、家庭 系ごみについては、引き続きごみ減量化に係る研修会や環境学習教室、環境イ ベントなどにおいて啓発する。
35		2 ごみ再資源化量 (再資源化率)	12,239t (19.5%)	7,590t (12.6%)	7,155t (11.6%)	14,846t (25.7%)	×	民間のリサイクル拠点が増えたため、市の公用収集による資源ごみ回収量が 減少傾向にある。
36		3 ごみ最終処分量 (最終処分量)	9,104t (14.5%)	8,740t (14.5%)	8,971t (14.5%)	7,973t (13.8%)	△	前年度に比べ、宍道湖の水草の回収量が減ったため、減少した。しかし、全体 量としては多い状況であるため、最終処分までの収集・分別のあり方などを検討 する必要がある。
37		4 リサイクル団体回収補助登録団体数	90団体	88団体	83団体	100団体	×	団体数、回収量とも減少傾向にある。令和元年度をもって事業廃止。
38	5-2 環境経済	1 「しまエコショップ」登録店舗数	32店舗	129店舗	149店舗	参考指標	—	【県事業】平成30年度に「しまエコショップ」は、業種を問わず環境にやさしい取 組を実施する店舗を登録する制度へと見直しを行われ、名称を「しまエコショ ップ」に変更された。
39		2 「しまねグリーン製品」登録製品数	44製品	48製品	41製品	参考指標	—	【県事業】
40	6-1 環境学習	1 斐川環境学習センターの利用者数	3,841人	5,300人	5,105人	5,000人	◎	
41		2 ごみ減量化アドバイザー等の派遣回数	83回	60回	71回	100回	×	「ごみ減量化研修会」の企画やアドバイザーの新規募集など、事業の充実と周 知を図る。
42		3 こどもエコクラブ登録団体数	19団体	8団体	8団体	参考指標	—	【公益財団法人日本環境協会(こどもエコクラブ全国事務局)事業】
43	6-2 環境情報	1 環境新聞発刊	年6回	年24回	年24回	年40回	○	環境に関する情報や地域の取組を「出雲エコナビ」として掲載した。今後も、 ホームページ等を活用し広報活動に努める。

平成30年度に平成29年度までの実績をもとに中間見直しを行い、本計画に掲げる6つ
の基本目標を推進するため、38項目の数値目標について点検、評価を行うこととした。ま
た、5項目を参考指標として状況や実績値を把握することとした。

〈評価基準〉

- ◎:最終目標値に達した。
- :最終目標値に達していないが、基準年度値より良くなった。
- △:基準年度値より良いが、前年度値より悪くなった。
- ×
- :基準年度値より悪くなった。
- :参考指標であり評価しない。

表紙の写真：出雲平野を舞うコハクチョウ
裏表紙の写真：宍道湖にかかる虹
(写真提供)公益財団法人 ホシザキグリーン財団



出雲市環境レポート

発行日：令和2年 12月

編集・発行：出雲市経済環境部環境政策課

〒693-8530 出雲市今市町 70 番地

TEL：0853-21-2211（代表）

メールアドレス：kankyou-seisaku@city.izumo.shimane.jp



古紙パルプ配合率 100% 再生紙を使用



植物油インクを使用しています。